東京都亜熱帯区

Tokyo Pacific Resort Hachijo-Island

八丈島

あなたの宝島へ。

東京から飛行機でわずか55分。
そこは、想像以上の体験が待ち受ける
常春の楽園でした。

この島で、ドキドキの地図を広げよう。

巡ったり、潜ったり、つくったり、味わったり、
知ったり、釣ったり、探ったり、温まったり…。
何から始めるかは、じぶん次第。
思うがままに満喫するのがこの島流。
さあ、あなただけのタカラモノを探しに、
黒潮の風の中を歩き出しませんか。

p3 ～ p4
探る
散策・トレッキング

p5 ～ p6
潜る
ダイビング・磯遊び

p7 ～ p8
釣る
魚釣り

p9 ～ p10
温まる
温泉

p11 ～ p12
食べる
地元料理

p13 ～ p14
訪ねる
歴史・文化

p15 ～ p16
たかぶる
スポーツ施設

p17 ～ p18
触れる・知る
自然エネルギー

p19 ～ p20
つくる・泊まる
創作体験・ホテル・宿

p21
贈る
特産品

p22
癒される
八丈の風景

探る

八丈島の魅力は「海」だけではない。この島のランドマークともいうべきふたつの山を散策する時、縄文の昔から息づいている大自然の心地よさに驚かされるだろう。

八丈富士は別名、西山。標高854メートルの美しい円錐形をした山だ。約1万年前に誕生した若い山で、なだらかな山肌には広大な牧場があり、環状道路が整備され、快適なドライブが楽しめる。

一方、別名東山と呼ばれる三原山は、標高700メートル。10万年以上も前に誕生したこちらには川も多く、樹木も鬱蒼と茂り、成熟した大人の山と言える。

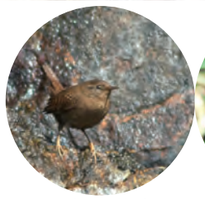
この三原山には、数多くの滝がある。たとえば硫黄滝、唐滝、裏見ヶ滝、大滝。中でも、唐滝川に沿って硫黄山に踏み入る「硫黄の路」では、硫黄滝と唐滝が堪能できて、おすすめだ。

頭上にはスダジイ(シイノキの一種)、足元にはハチジョウカグマやツワブキの葉が生い茂る山道を進むと、深いエメラルド色の水を湛えた「硫黄沼」と、そこに注いでいる「硫黄滝」が見えてくる。

そして、この地点から約15分ほど登ると、「唐滝」が現れる。水量はそれほど多くはないが、飛沫がキラキラと揺れる様は、岩肌にレースのカーテンを掛けたかのように美しい。

この他にも、八丈島には八丈富士や三原山周辺をめぐる多くの散策コースがある。気軽に歩けるわりには、思いがけないほど濃く、深い自然にふれあえることがうれしい。

ポットホール


モスケミソサザイ

タネコマドリ

オーストンヤマガラ

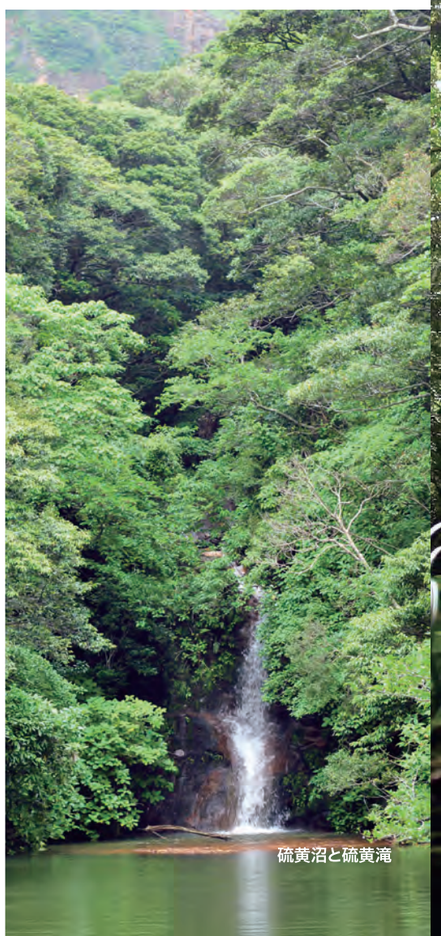
林道で見られる伊豆諸島ならではの鳥たち

八丈島の散策コースは、比較的平坦で歩きやすい路、
急な斜面が少なく歩きやすい路、
急な斜面が多く登山用の靴などの装備が必要な路と、
バラエティに富んでいる。
まずは、八丈島ビジターセンターや観光協会に行き、
八丈島ウォーキングマップをもらって散策を開始しよう。

大滝

唐滝

ホタル水路


硫黄沼と硫黄滝

裏見ヶ滝。滝の落ちている裏から見ることができる。
周囲は、鬱蒼としたジャングルと言いたい、野性味あふれる趣。

ふたつの火山に抱かれた島、八丈島。
西には山頂から裾野へと優美な広がりを見せる八丈富士。
東には雄々しい渓谷に囲まれた三原山。
山々の深く豊かな自然の懐に包まれれば、
眠っている「探検心」がムズムズしてくるはずだ。

潜る

八丈島の海は、眺めているだけではもったいない。
潮溜まりで遊んだり、シュノーケリングで魚と戯れたり、
ダイビングで海底散歩を楽しんだりと、
ぜひ、全身で黒潮の海を感じてほしい。
マリンブルーに染まりそうなほどの海には、
驚くほどダイナミックな景観が広がっているのだ。

底土海水浴場

黒潮の流れる八丈島の海は、豪快でしかも陽気な海だ、と思う。島の周囲は激しい潮流が創りだした彫刻とも言える岩場が多く、海底には、はるか昔に海へと流れ込んだ溶岩が海底棚や大きなアーチを造り、ダイナミックな景観をみせている。

東京から飛行機で、わずか55分の距離にありながら、島の周辺すべてがダイブポイントという、ダイバーにとっては天国のような島なのだ。ポイントの種類も、初心者からベテランまでを満足させるバラエティに富んでいて、なかなか奥が深い。例えば、「底土」からエントリーすると、有名な三叉アーチがある。魚と一緒にアーチを潜り抜ければ、そこはまるで竜宮城の入り口のようだ。

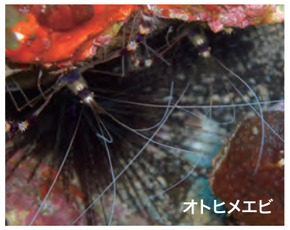
「ナズマド」からのエントリーはユウゼンの魚群「ユウゼン玉」が見られ、水深35メートルの砂地には、八丈島ならではのシンジュアナゴのコロニーもある。島でイチバン人気のダイブポイントだ。

ボートダイビングではさらに八丈の海の虜になること請け合いだ。黒潮に乗ってきたカツオやウミガメの優雅に泳ぐ姿、さらに、幸運に恵まれたならば、クジラに出会えることだってある。

ダイビングよりももっと気軽に海を楽しみたい、という人には、シュノーケリングがおすすめだ。八丈島は、岩場が豊富なため、たくさんの磯の住人たちと遭遇できる。光沢の美しいタカラガイ、青い模様が飛びきりお洒落なユビワサンゴヤドカリ、人見知りしないスジクモハゼなどなど、磯でお馴染みの生物から珍しい生物までを観察できる。子供から大人まで家族揃って楽しめるのが、潮溜まりウォッチングなのだ。

スキューバーダイビングもシュノーケリングも、道具類はダイビングショップでレンタルできる。手ぶらでやってきても、マリンブルーの海を気軽に堪能できる。

ウミガメ


オトヒメエビ

ミノカサゴ

クマノミ

フグ

八丈の海で、サーフィンや
ジェットスキーなどの
マリンスポーツも楽しもう。

魚群

左：黒潮にのってやってくる魚たち。シマアジはもちろん、
　　大型回遊魚のイソマグロ、カンパチなども見モノ。
下：ユウゼン。世界で八丈島と小笠原にしかいない。
　　カラダが友禅染めに似ているところからの愛称。

ユウゼン

釣る

黒潮あらう八丈島は、
言わずと知れた魚の宝庫だ。
磯で、浜で、堤防で、沖に浮かぶ釣り舟で、
朝早くから釣り糸を海に投げ込む太公望たちの姿。
太平洋を相手に、
釣りの醍醐味をトコトン味わってみよう。

キハダ

アオダイ

クサヤモロ（ムロアジ）

島の周囲は、磯釣りのポイントが豊富。大物狙いも夢じゃない。

こんな魚が釣れる。
1月〜4月　メジナ、シマアジ、カンパチ、ヒラマサ、イシダイ、
　　イシガキダイ、アオリイカ、ムロアジ
5月〜8月　カンパチ、ヒラマサ、モロコ、メジナ、ウメイロ、ムロアジ
9月〜12月 カンパチ、ヒラマサ、シマアジ、メジナ、ウメイロ、ムロアジ

メダイ

ヒラマサ

イスズミ

カンパチ

アオリイカ

朝6時。すでに港の堤防には、多くの太公望たちの姿が揃っている。出勤前に釣りを楽しむ地元の人たちに混じって、リゾートに来ている観光客たちや、東京近郊からやって来た釣り師たちの姿も見られる。

かんたんに釣れそうだ、と思うのは素人の浅はかさだろう。けれど、釣りというのは我慢の趣味であるということが、微塵も感じられない。魚の群れに当たると、まさに入れ食いだ。

港の仕事が始まる午前7時。釣り人たちは、挨拶を交わしながら引き上げる。みんな、顔馴染みなのだろう。

単なる堤防なのに、アットホームな温かささえ漂っているのが、なんともいい感じだ。堤防釣りのいいところは、初心者やファミリーでも楽しめる点だ。島へ来たついでに、ぜひともトライしてみてはどうだろうか。

また、岩場が多い島なので、磯釣り派にはもってこいのポイントも豊富だ。さらに、渡船を利用した八丈小島での磯釣りや沖合いでのボートフィッシングなど、太平洋を相手にありとあらゆる、釣りの醍醐味を堪能できる。

釣れる魚はムロアジ、カツオ、キハダマグロなどの他、釣り師の腕が鳴るシマアジ、大型のカンパチ、イシガキダイなど、種類の豊富なこと！トローリングでは200キロもあるカジキが釣れることもある。

宿では、お客さんの釣った魚を、さばいて膳に出してくれる所もあるので、ぜひ頼んでみよう。自分で釣った魚で一杯やるとき、単なる観光とは違う島旅の気分を味わえるはず。

下：八重根の釣り師たち・八丈小島を眺めながら、のんびりと釣り糸を垂れる。

温まる

銭湯感覚で浸れる、それが八丈島の温泉だ。
島内にある7つの温泉は、それぞれに特徴があり、
みんなに開放されている。
観光はもちろん、ダイビングや釣り、
ウォーキングの後で、ゆったり温まれば、
旅の思い出が体中にしみわたってくる。

旅をする時、日本人なら誰もが、その楽しみの中に「温泉」が入っているのではないだろうか。

八丈島が温泉郷の島であることは、案外、知られていない。足湯も入れると7ヶ所で温泉が楽しめる。

まずは秘湯と呼べる、「中之郷尾越温泉・ゆとりの湯」。通称、裏見ヶ滝温泉。

野趣あふれる渓谷にあり、名瀑「裏見ヶ滝」を見物後、すぐに浸れる露天風呂だ。湯煙、滝の流れる音、緑の香りに包まれる時間は、まさに癒しのひととき。ここは、男女混浴なので、水着着用で入ること。

対照的なクアハウス風の温泉が、「ブルーポート・スパ・ザ・BOON」。

海を眺めながらのジャグジーや打たせ湯は、日頃の疲れを一気に解消してくれる。サウナや水風呂も完備しているので、いろいろな入浴法を楽しんでみよう。

この他、檜の香りが心地よい大浴場と露天風呂がある「樫立向里温泉・ふれあいの湯」、晴れの日は遠く青ヶ島を望める「中之郷温泉・やすらぎの湯」、八丈島のサーファー御用達「洞輪沢温泉」、その名のとおり見晴らし自慢の温泉「末吉温泉・みはらしの湯」、海風が爽やかな「足湯きらめき」。銭湯のようにフラリと行って、地元の人たちとふれあいながら、島のディープなネタや見所、食べ処を聞けば、旅の深さが断然迫ってくるはずだ。

派手さはないが、景色といい、温泉といい、現代人の求めるリラクゼーション環境が慎ましやかに整っているのが、八丈島なのだ。

裏見ヶ滝温泉（中之郷尾越温泉・ゆとりの湯）～男女混浴なので、水着着用のこと。
泉質：ナトリウム－塩化物強塩温泉、料金：無料、
入浴時間：午前10時～午後9時、定休日：なし

末吉温泉・みはらしの湯～湯上りに座敷で、大の字で寝ている人も。
泉質：ナトリウム－塩化物強塩温泉、料金：大人500円、小学生200円、
入浴時間：午前10時30分～午後9時30分、定休日：火曜日

樫立向里温泉・ふれあいの湯～地元の人が毎日入浴に来る、人気の温泉。泉質：ナトリウム－塩化物強塩温泉、
料金：大人300円、小学生100円、
入浴時間：午前10時～午後9時、定休日：月曜日

洞輪沢温泉～風光明媚な洞輪沢漁港の近くにあり、八丈島の温泉の元祖。泉質：カルシウム・ナトリウム－炭酸水素塩・塩化物温泉、料金：無料、入浴時間：
午前9時～午後9時、定休日：毎月第1月曜日

中之郷温泉・やすらぎの湯～浴槽からの眺めは抜群。
泉質：ナトリウム－塩化物温泉、料金：大人300円、
小学生100円、入浴時間：午前10時～午後9時、
定休日：木曜日

ブルーポート・スパ・ザ・BOON～
お風呂上りに着られる、アロハ（男性）やムームー（女性）のレンタルまである。
泉質：ナトリウム－塩化物強塩温泉（高張性・中性・高温泉）、料金：大人700円・小学生300円、
入浴時間：午前10時～午後9時、定休日：水曜日

足湯きらめき～藍ヶ江から太平洋を展望でき、
1月は水平線に沈む夕日などを
楽しめる。泉質：ナトリウム－塩化物温泉、料金：無料、
入浴時間：午前11時～午後9時、定休日：年中無休

食べる

翡翠色のあしたばうどん

魚が旨く、野菜が旨い、
八丈島は、風土が恵んだ食材の宝庫。
郷土料理に隠された島の人の工夫、
八丈島の歴史や文化も
同時に味わおう。

この島独特の料理に、「島寿司」がある。初めて食べるとき、誰もが「えっ？お寿司をカラシで食べるの？」と驚くことだろう。その島寿司とはなにか…。

遠い昔、長い船旅用のお弁当として工夫されたものと、島には伝わっている。ネタは、メダイ、オナガダイ、アオダイ、トビウオなど、太平洋を元気に泳ぎ回っていた魚たちを醤油ダレに漬け込んでおいたもの。

知らず知らずのうちに、ポイポイと口に運んでしまうほど、美味い。八丈島では、この島寿司を、どこの家庭でも作るという。それこそ、郷土料理というものだ。

さて、伊豆諸島の珍味といえば、あの独特な匂いを放つ「くさや」。同じくさやでも、島それぞれに特徴があり、匂いが比較的ソフトでイチバン食べやすいのが、八丈島のくさやだと言われている。

だから、くさや初心者でも、驚くほど美味しく食べられる。騙されたと思って、ぜひチャレンジして欲しい。アツアツを細かくさいてそのまま食べるのもよし、醤油とマヨネーズをちょっとつけて食べるのもよし。焼酎のおつまみに、これほどふさわしい肴はない。

このくさや、江戸時代にムロアジやトビウオなどを塩干しする際、貴重な塩を節約するために、同じ塩水を繰り返し使ったことから始まる。古の人々の工夫が、島の名物として今なお生きているのだ。

島の野菜を味わうとなると、その代表はなんといっても「あしたば」料理。あしたばは別名を「八丈草」といって、独特の苦味を持つセリ科の多年草だ。近頃はビタミンたっぷりの、健康野菜として注目されている。天ぷら、おひたし、ゴマ和え、味噌汁など、本場のあしたば料理を堪能しよう。

そのほか、里芋、スイカ、唐辛子など島で採れた野菜や果物には、八丈の気候と土地が産み出した格別のうま味がある。お馴染みの食材のはずなのに、ちょっとした感動すら味わえるかもしれない。

くさや

漬けの寿司ネタとカラシが絶妙で、クセになる美味しさ。
お店で握り立てを味わおう。

八丈フルーツレモン

島野菜

ムロアジのすり身汁

あしたばソフトクリーム

ぶど（海藻を煮出して固めたもの）

焼酎

明日葉の天ぷら

里芋とカツオの酒盗

トビウオの刺身

訪ねる

黒潮は八丈島に、
漂流・漂着の文化をもたらした。
はるか昔の中国大陸からの船や、漁船、流人の船。
そのどれをも受け入れてきた歴史がある。
旅する人を、包み込むように温かいのは、
懐の深い歴史があるからなのだろう。

陣屋跡の玉石垣。エキゾチックな趣が漂う道。

八丈島を歩いていると、ふと東南アジアの村へ迷い込んだような錯覚に陥る。

大里地区にある玉石垣の続く「馬路散策路」、ビロウの並木、優婆夷宝明神社のソテツは、東南アジアの道を思い起こさせる。

「ふるさと村」にある高倉の貯蔵庫、内部に壁のない母屋、庭に生えているマングローブを思わせる熱帯の木は、日本の懐かしい田んぼと藁葺き屋根の風景とは異なった趣がある。

それはなぜだろう。

「八丈島の文化は、漂流・漂着、そして流人の文化」という言葉にそのヒントがあるようだ。

黒潮の流れに影響を受け、古くから日本のみならず、はるか中国からの漂流者や漂着物が流れ着いてきた。

伝説の中では、秦の始皇帝から不老不死の霊薬入手の命を受けた徐福が、大陸から率いてきた人々のうち、五百人の童女が八丈島に、五百人の童男が青ヶ島に流れ着いたという。

八丈実記のなかではまた、明船の漂着記事が多数見られる。中之郷にある長楽寺の開祖・宗感も明からの漂着者の一人だという。

そして、豊臣秀吉の五大老の一人、宇喜多秀家は、関ヶ原の戦に敗れたため、この島に流された。明治時代まで赦免になることのなかった宇喜多一族を、

八丈島歴史民俗資料館。流人コーナーは必見！

敷地内には玉石垣や熱帯の樹木が。

宇喜多秀家の墓

宇喜多秀家と豪姫の像

樫立地区に伝わる踊りと、八丈太鼓。

八丈島の人々は、温かく保護し続けた。

その思いは、南原に建立された秀家とその妻豪姫の像に窺い知ることができる。

「八丈島歴史民俗資料館」は、そんな八丈島の歴史を知ることができるスポットだ。

歴史にふれたら、次は島に受け継がれている伝統芸能を見てみよう。

島内で頻繁に行われるイベントで見られるのが、八丈太鼓だ。

八丈太鼓は両面打ちで鳴らす太鼓だ。下拍子は一定のリズムをきざみ、上拍子はアドリブで打つ。

「この響きには、望郷の思いが込められている」と島の人は言う。かつての流人たちが、本土を思って打ち鳴らした八丈太鼓を聞きつつ、潮騒の彼方からやってきた漂流者に思いを馳せてみたい。

たかぶる

サッカーを愛する人たちに絶好のフィールドがある「南原スポーツ公園」。山の見える広々とした芝の緑も美しいサッカーコートが2面取れる広さのグラウンドが、各種大会や学生の強化合宿などにも大活躍してくれそう。そして、元気いっぱいの少年たちがボールを追いかける野球場も人気だ。毎年開催される恒例のパブリックロードレースも人気イベントのひとつだ。

ビギナーから本格派のランナーまで、思い思いのカラフルなコスチュームに身をつつみ、自然豊かな島の眺めを味わいながら自分にあった走りが楽しめる。

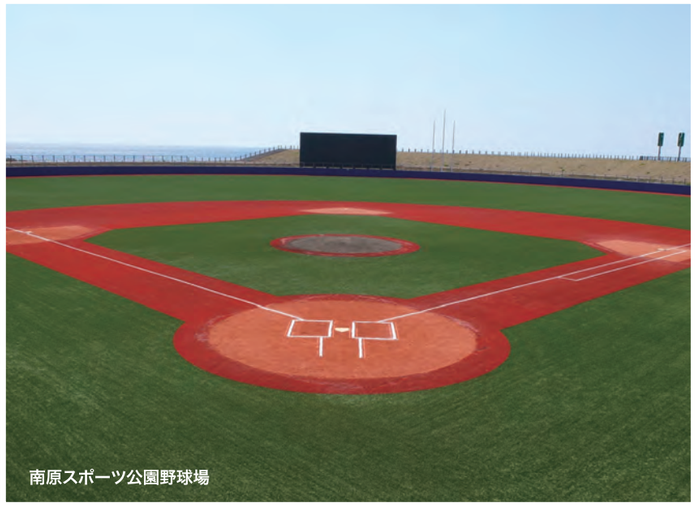
もちろん、海の魅力を堪能できるスポーツも健在。例年、末吉の汐間海岸で開催されるサーフィン&ボディボードの大会をはじめ、マリンスポーツの醍醐味をぞんぶんに堪能できる。

そんなスポーツを楽しむための舞台がそろっている八丈島。

今日もまたいい汗が太陽にきらめいているに違いない。

南原スポーツ公園野球場

南原スポーツ公園全景


南原スポーツ公園野球場

南原スポーツ公園サッカー場

南原スポーツ公園サッカー場

パブリックロードレース

サーフィン

スポーツを愛してやまない人たちに、
申し分のない舞台を提供してくれる八丈島。
天然芝サッカーコートが2面ある
広々としたグラウンド。
人気のロードレースやサーフィン大会、
人工芝も真新しい野球場。
大自然が放つエネルギーが、スポーツ心に
熱い刺激を与えてくれる島なのだ。

触れる

八丈島を散策していて、花や木々、
鳥や昆虫の名前を知りたくなったら
「八丈植物公園」に行こう。
島特有の植物やいきものに会える。

「八丈植物公園」に行ったら、まずビジターセンターへ行こう。ビジターセンターでは、八丈の自然の全体を把握することができる。上映されているビデオは、子供にもわかりやすい。八丈の自然への好奇心が湧き起こる。また、公園では、スダジイ、オオシマザクラなどの樹木やアカコッコ、イソヒヨドリなどの野鳥たち、そして、ハイビスカス、ブーゲンビリアなどの花、といった島で見かける植物やいきものたちを、一堂に知ることができる。ゆったりとした園内は8つのゾーンに分かれており、八丈島の自然以外にも、熱帯・亜熱帯の珍しい植物も見ることができる。植物公園のほかにも、島の生物は見どころがいっぱいだ。

八丈島の気候は、温暖で雨が多い海洋性気候。この気候により「光るキノコ」が多く生息している。梅雨時から秋雨のころまで、森の中はまるで銀河のような幻想的な世界となる。

春先には、八丈富士の裾野にあるフリージア畑で、一面に咲く花の香りに包まれると、それだけで幸せな気分になれる。八丈島には、その名も「ふれあい牧場」という牧場がある。八丈富士の中腹に位置し、夏でも涼しいこの牧場では、八丈島の酪農の歴史がわかるだけでなく、牛とも触れ合え、さらにすばらしい展望が楽しめる。小学生に返って、好奇心のままに八丈島の自然に触れよう。

色とりどりの
フリージア。
花摘みも楽しめる。

ブーゲンビリア

ハイビスカス。鮮やかな赤が夏らしい。

ふれあい牧場でのんびり過ごす牛たち

冬に咲くアロエの花や、
温室のパッションの花も見もの。

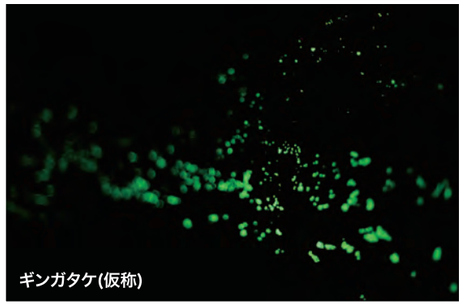
植物公園内は、広場、遊具、散策路が整備され、
キョンも飼育されている。入園は無料。

アカコッコ

イソヒヨドリ

シイノトモシビタケ

ヤコウタケ



ギンガタケ(仮称)

知る

八丈島は、自然エネルギーの利用を推進している。

中之郷地区には、「八丈島地熱発電所」がある。マグマ溜まりの熱で加熱された熱水を利用して、最終的に発電する方法だ。さらに、利用後の温水は、農業施設で植物を育てることにも利用されている。隣接する「えこ・あぐりまーと」では、八丈島の農産物を展示即売しているほか、喫茶コーナーも併設されている。

また、風の強い八丈島ならではの風力発電もある。

大地が沸かし、風が作るエネルギーを活かす島。

ドライブついでに、未来の地球環境を考えるのも「エコ・アイランド」八丈島らしい旅かもしれない。

えこ・あぐりまーと／
料金：無料、開館時間：10時～16時、年中無休

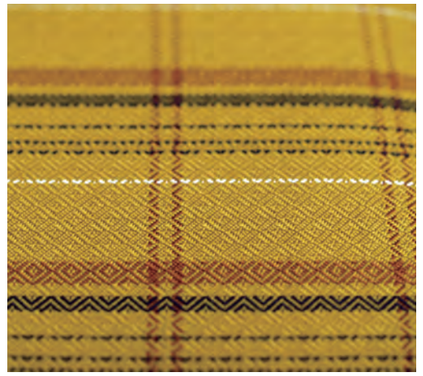
八丈島は、自然の力を利用した
クリーンエネルギーを
推進している島だ。
豊かな自然環境の中で、
未来の地球環境を考えてみたい。

八丈島地熱館／
料金：中学生以上100円 小学生50円 未就学児無料
開館時間：9時30分～16時30分、年中無休

つくる

旅の思い出作りのひとつに、「体験」がある。
八丈島で言えば、「黄八丈」の機織。
憧れはあっても、なかなかチャンスがないもの。
伝統に触れるカルチャーな一日を、
旅先で過ごしてはどうだろう。

「昔は、朝から晩まで、島のあちこちで、機を織る音が聞こえてましたよ」と島のお母さん。
黄八丈の特色は、すぐれた染色技術にある。色は黄、樺、黒の三色。島に自生している植物の天然染料で染め上げた絹糸を使い、手織りで丁寧に仕上げる。
島には、機織を体験できる織元があり、約10センチメートル四方ほどのコースターなら40分ぐらいで仕上げることができる。が、実際にやってみると、これがなかなか難しい。踏み木を踏みながら、縦糸の間に手投抒（てなげひ）を左から右へ、右から左へと潜らせ、それを繰り返す。最初は戸惑うが、リズムにのってくると、いっぱしの織姫気分になれる。織り上がったものは、後日、自宅まで郵送してくれる。
体験のもうひとつに、花の島八丈ならではの花遊び体験がある。思い思いのセンスで、島の草花をちりばめたコースターや葉書を作るのもいい記念になる。
このほか、八丈焼の陶芸も体験できる。八丈島では今から約7千年前の縄文土器が発掘されている。そんな太古の昔に思いを巡らせながら、世界にたったひとつのマイ湯呑をお土産につくろう。



島の草花を使ったコースターやはがき

八丈焼陶芸教室

黄八丈機織体験（所要時間１時間）

体験には予約が必要なものもあるので、事前に問い合わせて確認しよう。

泊まる

いい宿選びは、いい旅づくりの始まり。
八丈島のバラエティ豊かな宿泊施設の中から、
目的と遊び方に合った宿を選ぼう。

目的に合った宿ほど、その旅に充実感と満足感をもたらしてくれるものだ。
大型リゾート・ホテルから、プチホテル、民宿、釣り宿からダイバーズホテルまで揃っている八丈島。自分の旅にふさわしい宿がきっと選べるはずだ。
例えば、滞在型の休暇を楽しむなら、リゾート・ホテルや民宿がいい。宿で現在の島情報を得て、イベントや島の自然を堪能しよう。
遊び方が決まっているのなら、それにふさわしい宿選びをしよう。
スキューバーダイビングを楽しむ旅なら、ダイバーが利用する宿を選ぼう。宿の主人は、ダイブポイントに詳しく、機材レンタルも、機材の洗い場もある。
釣りを楽しむなら、釣り宿がおすすめだ。釣り客と顔を合わせる食事のひとときに、ベテランの釣り人たちから、自慢話とともに、コツを伝授してもらえるかもしれない。
釣った魚の美味しい調理法を教わることもしばしばだ。宿自慢の磯料理や家庭料理を味わいながら、一献傾けてみよう。旅の夜がメチャメチャ愉快な時間になるはずだ。
まさに、旅とは人に出会うための時間だと思う。
八丈島には、そんなふれあいの宿がたくさんある。

贈る

旅の思い出話に花を咲かせるひととき。
そこには、土産の品々が欲しいもの。
八丈島の特産品で、
アフタートラベルを楽しもう。

八丈島で島酒といえば焼酎。
どれを土産にすればいいか迷うほど。
居酒屋で出会った焼酎を探して土産にするのもいいが、酒屋の主人から、焼酎の薀蓄を聞きながら、楽しい土産品選びの時間を過ごそう。
この焼酎にふさわしい肴「くさや」も、ぜひ、持って帰りたい味だ。
真空パックになったものは日保ちもいい。焼いてちぎって瓶詰めにしたものなら、匂いを気にせず楽しめる。生の魚を丸ごと一匹というのも豪快。
あしたばを使ったお茶やお菓子、島唐辛子の利いた製品もおすすめだ。
消えてしまう味の土産品ばかりでなく、いつまでも思い出として残る土産品も欲しいところ。
日本を代表する織物「黄八丈」関係の土産品は種類も豊富で、自分用としても家族用としても喜ばれる。

また、八丈は観葉植物の栽培では日本でも有数の産地。切葉・切花もいいが、鉢植の植物は大物から小物まで、数多く揃う。部屋に飾った八丈産の植物を見て、八丈の旅を思い出そう。

お店では島で獲れた新鮮な魚を配送してくれる。

南国の香り漂うパッションフルーツ。ジュースもおすすめ。

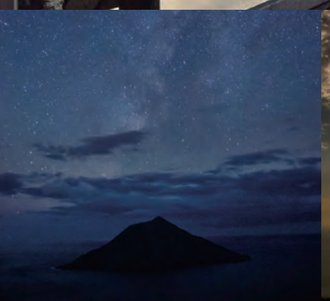
黄八丈を使ったいろいろな小物もある。

鉢植の植物がよりどりみどり。

花の咲く時期なら、ストレチア、フリージアの花束を。

島の味覚、あしたばや唐辛子が入った食品。

八丈富士のお鉢廻り



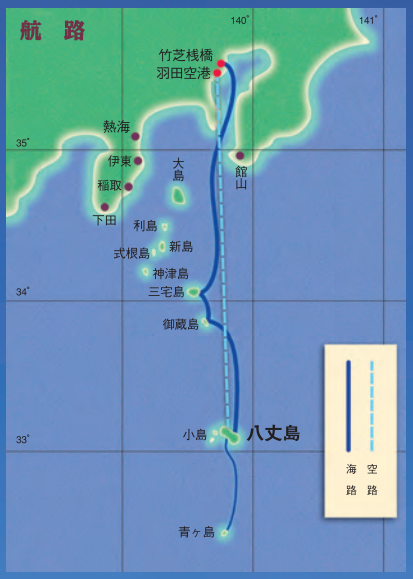
八丈島の風景には、
ココロをなごます不思議な力がある。
ぜひ、自分の目で、肌で、
とびきりの「八丈」を感じてほしい。

東京都亜熱帯区

八丈島

主な行事

◎八丈島パブリックロードレース･･･1月中旬
◎フリージアまつり･･･3月下旬～4月上旬
黄色、白、ピンク、紫などの色鮮やかなフリージアが咲く会場で春の香りを楽しめます。
◎八丈島夏まつり･･･7月23日～25日
数十軒の夜店の列、その先の広場には舞台があり、郷土芸能、ミス八丈発表会などがにぎやかに行われます。
◎八丈島サマーコンサート･･･8月
◎八丈島納涼花火大会･･･8月11日
◎八丈島RAINBOW CUP(フットサル大会)･･･9月
◎大神宮例祭･･･10月
◎優婆夷宝明神社例祭･･･11月
◎三島神社例祭･･･11･12月



アクセス

空から･･･

東京･羽田空港よりジェット機で55分、八丈島へ到着。
全日空：東京羽田⇔八丈島･毎日3便。
全日空･･･････････☎0570－029－222(有料)

海から･･･

東京･竹芝桟橋から大型客船で、八丈島へ。
東海汽船の大型客船が毎日出航。夜東京発、三宅島･御蔵島経由、翌朝八丈島着。毎日1往復。
東海汽船竹芝支店･･･････････☎03－3433－1251
東海汽船予約センター･･･････････☎03－5472－9999
東海汽船八丈島支店･･･････････☎04996－2－1211

八丈島から他の島々へのアクセス

●東京愛らんどシャトル(毎日運航)

青ヶ島、御蔵島へ運航。また、御蔵島から三宅島、大島、利島へと飛んでいる。
東邦航空(株)予約センター(日曜休)･･･☎04996－2－5222
当日運航状況案内･･･････････････････☎04996－2－5200

●青ヶ島連絡船

(1日1往復･月～土出航･日は休み)
東海汽船八丈島支店･･･････☎04996－2－1211
当日運航状況案内テープ･･･････☎04996－9－0033

八丈島の足回り

タクシー、ハイヤー

史跡や名所を、ラクラクとまわりたい人に。島内には14の事業所があります。
例えば
◎ 時間制運賃　　中　型･･･････････5,600円～
　1時間ごとに　　大　型･･･････････8,000円～
※タクシー会社によって設定料金がかわることがあります。

レンタカー、レンタサイクル&バイク

自分なりの時間で自由に島巡りをしたい人に。島内には5のショップがあります。

	軽自動車	普通車	自転車	バイク
3時間	2,000円より	4,000円より	1,000円より	2,000円より
8時間	2,800円より	4,500円より	1,400円より	2,300円より
24時間	3,000円より	5,500円より	1,500円より	2,500円より

※八丈島は500メートルおきに地点標が設置してあり、現在地を知るのに便利です。「八丈島観光地図」等をご覧ください。

お問い合わせ

八丈町役場産業観光課･･･☎04996－2－1125(代)
八丈町ホームページ･･･www.town.hachijo.tokyo.jp
〒100－1401　東京都八丈島八丈町大賀郷2551番地2

八丈島観光協会･･･☎04996－2－1377
ホームページ･･･http://hachijo.gr.jp　e-mail･･･info@hachijo.gr.jp
〒100－1498　東京都八丈島八丈町大賀郷2345番地1

八丈町商工会･･･☎04996－2－2121
〒100－1401　東京都八丈島八丈町大賀郷2551番地2

発行元：八丈町産業観光課

お申し込みは･･･

2015年3月